



「人々の健康生活」の実現をめざします



vol. **37**
2026.9

中支部だより

広島県看護協会中支部会員数

保健師	43人 (入会率21%)
助産師	100人 (入会率72%)
看護師	2,780人 (入会率58%)
准看護師	25人 (入会率 5%)
合 計	2,948人 (入会率53%)

中支部長
ごあいさつ

看護職のつながりを力に、 学び合い支え合う中支部を目指して

広島中支部長 兼重 薫子 (中国電力株式会社中電病院)



広島県看護協会中支部の会員の皆様におかれましては、日頃より支部活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。広島県看護協会中支部長を務めております兼重薫子でございます。平素より、地域の保健・医療・福祉の現場でご尽力いただいております会員の皆様に、深く敬意を表します。

現在、少子高齢化の進展や生産年齢人口の減少、医療・介護ニーズの複雑化など、看護を取り巻く環境は大きく変化しております。2040年を見据え、人々のいのち・暮らし・尊厳を支える看護の役割は、これまで以上に重要となっています。日本看護協会では、2026年度の重点政策として、看護職のウェルビーイングの向上、持続可能な看護提供体制の構築、質の高い看護実践に向けた教育制度改革などを掲げ、看護職が専門性を発揮し、安心して働き続けられる環境づくりを推進しています。

また、令和8年度の広島県看護協会においては、「看護職の人材確保と定着推進」「地域包括ケアシステムの強化に向けた取組の推進」「災害等看護支援体制の整備及び対応力の強化」が重点事項として示されています。

看護職の人材確保と定着に向けては、一人ひとりがやりがいを持ち、安心して働き続けられる環境づくりが重要です。研修会や看護研究発表会などを通じて、会員の皆様が互いに学び合い、つながりを深める機会を大切にまいります。

また、地域包括ケアの推進においては、医療機関、訪問看護、介護、行政、教育機関など、多様な立場の看護職が連携し、それぞれの強みを活かして協働することが大切です。施設や



令和8年度 役員全員集合

職能の垣根を越えた交流を通して、地域の看護を支える活動を進めてまいります。

さらに、近年、全国各地で地震や豪雨などの自然災害が相次いで発生しており、災害時に看護職が果たす役割の重要性を改めて認識しております。広島県看護協会と連携し、災害支援活動に携わる会員の皆様や所属施設を支えられるよう、情報共有や連携の充実に努めてまいります。

最後になりますが、中支部の活動は、会員の皆様お一人おひとりのご協力により支えられております。看護職同士がつながり、学び合い、支え合える支部を目指して、役員一同、力を合わせて取り組んでまいります。今後とも変わらぬご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます、2026年度のご挨拶とさせていただきます。

★ 新役員紹介 ★



副支部長
末岡 園江
(土谷総合病院)

この度副支部長を任命されました。中支部の皆様のお役に立てるよう努めていきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。



幹事
川口 敦子
(広島赤十字・原爆病院)

初めてで分からないことばかりですが、精一杯努めてまいりたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。



幹事
吉弘 史
(中電病院)

今年度より役員になりました。初めてで分からないことが多いですが、皆様のお役に立てるよう一生懸命頑張りたいと思ひます。よろしくお願いいたします。



幹事
入江 英子
(一ノ瀬病院)

今年度より役員を務めさせていただくことになりました。初めてのことでご迷惑をおかけすると思ひますが、よろしくお願いいたします。

▶ 中支部交流会 「春のひととき～日々を支える皆さまへ、ほっとひと息の音楽を～」

講師 アンサンブル・スピカ 日時／令和8年4月18日(土) 場所／広島県看護協会

ピアノやフルート、クラリネットの美しい音色に心が癒され、心が洗われるようなひとときとなりました。日々の忙しさを忘れて気持ちが和らぎ、明日からまた頑張ろうという前向きな力をもらうことができました。

国家公務員共済組合連合会 吉島病院 高嶋 絵里

三者から奏でられる美しい音色が溶け合い、気が付けば演奏に引き込まれていました。穏やかな曲では柔らかな癒しに包まれ、軽快な曲では躍動が広がり、日頃の忙しさを忘れる優雅なひと時になりました。

広島市立広島市民病院 桐山 里美



令和7年度 事業報告

REPORT 01

社会経済福祉研修会

「医療機関職員に対する暴言・暴力等への対応について」

講師 大元・秋山法律事務所 大元 和貴 先生

日時／令和7年9月20日(土)

場所／広島市立広島市民病院

クレームは改善の宝と考えてきましたが、我慢すべきでない不当なクレームもあると学びました。正と不当を見極め、適切に対応する重要性を改めて理解できました。

広島赤十字・原爆病院 寺田 久美

ペイハラは医療現場でも増加しており、喫緊の課題となっています。2026年度から防止措置が義務化されることを踏まえ、その理解と対応策を学びました。理不尽な要求に耐えるのではなく、組織的なマニュアル整備と体制づくりの重要性を感じました。

中国電力株式会社中電病院 佐伯 祐美



REPORT 02

救急蘇生(初級コース)研修会

講師 広島市立広島市民病院 救急看護認定看護師 笠井 有希 先生

日時／令和7年9月27日(土)

場所／広島市立広島市民病院

質の高い胸骨圧迫を行うことは、脳や心臓に酸素を届け、後遺症を軽減に繋がり社会復帰にも影響することを学びました。質の高さを維持するために、声掛けや役割の交代など連携が非常に大切であることを感じました。今後も積極的にコミュニケーションを取り連携を図っていききたいと思います。

広島市立舟入市民病院 上村 梨乃



急変時の看護では初期対応が大切であることを学びました。実際にグループで役割を交代しながら演習をさせていただきました。その中で質の高い胸骨圧迫を中断なく継続すること、迅速な応援要請とAEDの使用が大切であることを学びました。

広島はくしま病院 松原 佳小里



REPORT 03

組織強化研修会 「パーソンセンタードケアについて」

講師 広島赤十字・原爆病院 認知症看護認定看護師 山本 陽子 先生

日時／令和7年11月15日(土)
場所／広島市立広島市民病院

『パーソンセンタードケア』について詳しい内容を講義していただき、たいへん勉強になりました。3つのステップ『思いを聞く』『情報を集める』『ニーズを見つける』を現場で活用し、認知症の方の行動の1つ1つに隠されているニーズを満たすことができるような看護を実践していきたいと思います。

国家公務員共済組合連合会 広島記念病院 赤尾 真理

今回の研修を通して、「全ての人々に価値がある事を認め尊重する人間関係を重視すること」の大切さを学びました。今後は、患者の思いを聞き、情報収集・本人のニーズを見極め、傾聴と共感を意識し、その人らしさを大切にする看護を実践していきたいと思いました。

国家公務員共済組合連合会 吉島病院 鈴木 美和子



REPORT 04

関連職種研修会

講師 広島市立広島市民病院 認知症看護認定看護師 大西 奈緒 先生
特別養護老人ホームリアライヴ高陽 主任相談員 添田 真行 先生
土谷総合病院 薬剤師 下村 雄祐 先生

日時／令和7年12月13日(土)
場所／広島市立広島市民病院



今回の「身体拘束ゼロへの挑戦」というテーマに興味があり参加させてもらいました。

看護師だけでなく、相談員、薬剤師と多職種から身体拘束について取り組まれている内容を聞き、とても良い学びとなりました。自部署でも多職種で話し合い、身体拘束の適正化、最小化に努めていきたいと感じました。

土谷総合病院 奥田 文

当院でも、認知症ケアチームが先頭に立ち身体拘束を減らすよう活動しています。今回の研修で様々な立場の先生から話を聞き、共通して身体拘束が患者の尊厳を奪うということでした。当院でも、患者の尊厳を考慮し対応出来ているか考えさせられる研修でした。

たかの橋中央病院 塚田 直美

REPORT 05

看護研究発表会

講師(指導教員) 広島文化学園大学 教授 佐藤 敦子 先生

日時／令和8年2月7日(土)
場所／広島市立広島市民病院

中支部看護研究発表会は、身体抑制、意思決定支援など私自身も臨床で直面する課題が多く、実践に役立つ内容でした。研究で終わらず、看護の質を保つために振り返りと継続的な実践の重要性を再認識しました。

国家公務員共済組合連合会 吉島病院 木下 美香

本校では、数年前からユニフィケーションを意識した活動を臨床現場と取り組んでいます。今回の研究発表会では、日ごろ取り組んでおられる看護活動の成果を聞く良い機会となりました。今後の教育活動中で、看護学生に伝えていきたいです。

広島市立看護専門学校 繁野 憲子



令和8年度 事業計画

令和8年9月19日(土)	社会経済福祉研修会
令和8年9月26日(土)	救急蘇生研修会
令和8年11月7日(土)	支部研修会・組織強化研修会
令和8年12月12日(土)	関連職種地域連携研修会
令和9年2月6日(土)	看護研究発表会

専門職として輝いていると感じるとき

国家公務員共済組合連合会 広島記念病院 摂食・嚥下障害看護認定看護師 武田 温子



私が摂食・嚥下障害看護の道を目指したきっかけは、ある患者との出会いでした。

脳梗塞後遺症による摂食嚥下障害で誤嚥性肺炎を繰り返すため、入院後嚥下機能評価を実施し「経口摂取は困難」という

結果でしたが、「また口から食べたい」という患者・家族の強い思いから、嚥下訓練が開始されました。目標をもった患者は、嚥下訓練の効果が著明にみられ、経口摂取できるようになり自宅退院されました。その時の患者・家族の「ありがとう」という言葉と共に幸せいっぱいの笑顔は今でも忘れられません。

私は摂食嚥下障害患者の食支援を行う際、「患者の笑顔を引き出したい」と思っています。そのためには患者・家族の思いを十分引き出し希望を叶えられるよう努めることは

もちろんですが、嚥下訓練が効果的に実施できるためには「食べられる“口”と“食事摂取姿勢”をつくること」がとても大切です。この食べる基盤をつくり、患者が「おいしい」「食べたい」を思える、食支援を目指しています。

当院では質の高い食支援を提供するため、口腔ケアと食事摂取姿勢の専門的知識・技術を習得した人材『POTTナース』の育成を始めました。POTTとは「ポジショニングで(Po) 食べるよろこびを(T) 伝える(T) プロジェクト」を示す言葉です。昨年度は10名のPOTTナースが誕生し、現場で活躍しています。患者が安全安楽に食事を自力摂取する姿、食を楽しむ姿がみられ、患者・看護スタッフの笑顔が生まれてきています。

「食」は「人」を「良」くすると書きます。食べることは生きる力になります。看護師皆が食べられる“口”と“食事摂取姿勢”づくりを実践し、たくさん笑顔の花が咲くようこれからも活動していきます。

編集後記

今年度も中支部だよりを発行することができました。

日頃より支部活動にご協力いただいている会員の皆様、また発行にあたり、ご協力いただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

支部活動が学びと繋がりとなるよう、今年度も様々な事業を企画しています。

多くの皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

入江 英子

[発行日] 令和8年9月発行

[発行所] 公益社団法人広島県看護協会 広島中支部事務所
〒730-0051 広島市中区大手町4-6-11 ミーニューカーザ310号
TEL/FAX 082-248-2500
E-mail: s-naka@nurse-hiroshima.or.jp

[発行責任者] 兼重 薫子